なぜ今、『大刀洗空襲』を学ぶのか？

これまで、市内の小・中学校では、「沖縄戦」、「広島原爆投下」、「長崎原爆投下」を中心に平和学習に取り組んできました。

『大刀洗空襲』のことを知った教職員が、戦跡（遺跡）を調べ、悲惨な体験をされた方の証言をひとつひとつ積み重ねる中で、子どもたちにこの身近な『大刀洗空襲』のことを伝えていかなければならないと考え、現在、市内の小・中学校で『大刀洗空襲』学習が取り組まれています。

「大刀洗空襲」を知っていますか？

福岡県筑前町から大刀洗町にかけて、戦前、東洋一とうたわれた旧陸軍大刀洗飛行場が存在しました。旧陸軍大刀洗飛行場の歴史は、大正時代にさかのぼります。飛行場の完成は1919年（大正8年）10月。大正末期には日本最大の航空部隊が駐屯する飛行場となりました。昭和10年代に入ると、陸軍航空兵に対する飛行機操縦教育の拠点ともなり、後に特攻隊員となる多くの飛行兵が教育を受けました。特攻隊の出撃基地で知られている、鹿児島県の知覧飛行場は、大刀洗陸軍飛行学校の分校です。

大刀洗飛行場は、そのような重要拠点ゆえにアメリカ軍の格好の標的となりました。そして、1945年（昭和20年）3月27日と31日、沖縄上陸作戦（4月1日）支援目的で、B29編隊による初の波状攻撃が大刀洗基地に対して行われました。空襲によって、児童をふくむ数多くの民間人も犠牲になりました。

「頓田の森の悲劇」　～甘木立石村（現朝倉市）～

▲頓田の森
（現 朝倉市）

1945年（昭和20年）3月27日、国東半島から侵入した米軍の74機のB29爆撃機が大刀洗飛行場を爆撃しました。修了式の最中であった甘木の立石国民学校児童は警報と共に地域別に急ぎ帰途につきましたが、爆撃が始まり、このまま一ツ木に帰ることがあやぶまれ、学校近くの頓田の森へ避難しました。しかし、不運にも投下された爆弾の一発が児童31名の命を奪いました。1945年11月20日、一ツ木神社（現 朝倉市）で延命地蔵の除幕式が行われました。一瞬にしてわが子を爆死という無残な姿で命を奪われた保護者の、二度と繰り返してはならない戦争への憤りであり、恒久平和を願ってやまない叫びです。

延命地蔵（一ツ木神社内）▶

『もう、戦争は御免です』　～小郡市立石、「三軒屋」の悲劇～

▲「平和の碑」
～のちの世代に伝える～

1945年3月27日、三軒屋付近が爆撃されました。（現在の記念碑の東側付近）

この日は小郡、立石国民学校でも修了式の日でした。警戒警報発令で、児童たちは集団下校中に、編隊を組んだB29が落とした爆弾で小学生3名が犠牲になりました。小郡市立石校区では、2005年（平成17年）、区長会等により戦争の記憶が風化されないように『平和の碑』が設立されました。

『不戦の日』～小郡市立石、花立地区の空襲～

3月31日、小郡市立石花立地区を中心に2回目の空襲があり、甚大な被害を受けました。花立地区では、戦争を風化させてはいけないと、この3月31日を「不戦の日」と位置づけ、毎年法要が行われています。

語る
～『大刀洗空襲』の証言～

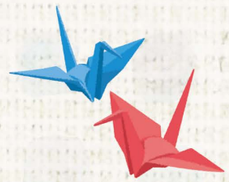
大刀洗空襲で、母と弟をなくしました。本当は人様の前にのうのうと口にすべき体験ではないと思っています。口にすることは、私にとり極めてきつく、体験以上の何ものでもありません。私にとって、人間にとって、この地球上で命育むものにとって、戦争は、もう御免です。

この3月27日という日は、私にとってたった一人っきりの、かけがえのない母の命日に当たります。加えて、数えの2歳にも満たない末弟の幼い命が、母の背に背負われて無残にも焼けただれ砕け散った、実に無念極まる痛恨の日でもあります。

受け継ぐ
～『大刀洗空襲』の学習を終えた中学1年生の感想～

私は大刀洗空襲について小学校の時から知っていたけど、こんなに恐ろしいものだとは考えたことがありませんでした。何もしていない子どもたちまで巻き込んでしまうので、絶対に戦争はしてはいけないと思います。

私は争いのない世の中をつくりたいです。そのために、学習して思ったことや感じたことを次の世代に語り継いでいきたいと思います。



体験者に寄り添い、『大刀洗空襲』を語り継ぐ意味

「大刀洗空襲」を掘り起こし、語り継ぐのは、「子どもたちを再び戦場に送らない」という強い決意によるものです。体験者の語れない、語りたくない思いに寄り添い、一人ひとりの生きざまに正面から向き合い、自分のこととして引き寄せて考えることの大切さを伝えたいと思います。